

## 講演 1

# 東日本大震災被災地の現状

～災害が起きても一緒に暮らせるように～

多田洋悦 (社団法人岩手県獣医師会 会長)

1976年3月、北海道酪農学園大学酪農学部獣医学科卒業。同年4月、北海道野付郡別海町小原家畜医院勤務。1978年4月、岩手県遠野市遠野市農業協同組合畜産部診療課勤務。1981年4月、岩手県遠野市遠野地方農業共済組合家畜診療所勤務。1988年4月、岩手県遠野市多田獣医科病院開設。1999年4月、岩手県遠野市愛ラブ動物病院改称開設。2006年12月、社団法人岩手県獣医師会動物愛護委員会委員長。2007年5月、社団法人岩手県獣医師会理事・動物愛護委員会委員長。2009年5月、社団法人岩手県獣医師会副会長。2011年3月、岩手県災害時動物救護本部副本部長。同年5月、社団法人岩手県獣医師会会長。同年12月岩手県動物愛護推進協議会会長



司会:はじめに、多田洋悦様のご講演でございます。多田様は、現在、社団法人岩手県獣医師会会長をいらっしゃいます。北海道の家畜医院で勤務されてから岩手県の診療所等勤務、獣医科病院開設を経て愛ラブ動物病院を開設されました。その後、岩手県獣医師会動物愛護委員会の委員長や、岩手県動物愛護推進協議会の会長なども務めておられます。

それでは、多田様よろしくお願いたします。



只今ご紹介をいただきました岩手県獣医師会の多田でございます。本日は平成24年度動物愛護週間中央行事動物愛護シンポジウムにおきまして、話題を提供させていただき機会をいただき感謝を申し上げます。また、昨年3月11日の東日本大震災発生以来、全国の皆様から本県をはじめ、被災県各地に対します多大なるご支援とあたたかい励ましのお言葉を頂戴いたしました事に対しまして、改めてこの場をお借りし厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



私は、3.11当日に盛岡市内で産業動物関係学会の役員会がございまして中心部におりました。午後2時46分、突然に携帯電話の緊急エリアメールが鳴り響き、何かと思った10数秒後に突然道路が大きく波打ち、街路樹や電柱がしなるように揺れました。そして即停電状態となり、何が起きたのかという状況でした。その後30分後に目の当たりにしたのは、携帯のワンセグテレビとカーナビゲーションに映し出された凄まじい情景でした。真っ黒い大津波が海から港に押し寄せ、なにもかも呑み込んで荒れ狂う、まさに想定をすることすらできなかった東日本大震災の発生でございました。

このスライドは、3月16日頃に被災地を訪れた時の写真です。陸前高田市竹駒町で撮った写真ですが、津波は10km程川を遡上しました。

### 🐾 話題提供の内容

1. 大震災(地震及び津波)の状況
2. 岩手県における被災状況
3. 岩手県災害時動物救護本部
4. 被災動物救護活動の内容
5. 救護活動における課題と教訓
6. 災害に備えた飼い主の心構えと準備

本日は、スライドに示す内容につきまして皆様にお話をさせていただきます。話題提供の内容は、地震と津波の内容とそれによる被災状況、そして岩手県において設置しました災害時動物救護本部とその具体的な救護活動の内容、救護活動における課題と教訓、最後は災害に備えた皆さんの心構えとその準備について簡単ではありますがお話をさせていただきますと思います。

### 🐾 岩手県の被災状況(23.11.04現在)

死亡者(24.09.11現在)	4,671名
行方不明者(同上)	1,205名
倒壊した家屋	24,747棟
避難者数	54,429人
避難所数(最大)	399箇所
仮設住宅建設	17,495戸
入居者数	42,515人

「岩手県ホームページ」より

岩手県における死亡者は、今年9月11日現在の発表のもので4,671名、いまだ行方の分からない方が1,205名に上ります。6,000名近い方が尊い命を落とされ、あるいは犠牲になっています。避難者数が54千余名、避難所の数が最大399か所であり、その後仮設住宅が17千余戸建設されて42,000人余りの方が入居しています。

### 🐾 地震及び津波の内容

発生日	2011.03.11
発生時刻	14時46分18.1秒
震源の深さ	24km
規模(Mw)	9.0
最大震度	7 宮城県栗原市
津波最大波高	21.1m
最大遡上高	40.1m(綾里湾)

地震と津波の内容です。震源の深さは24km、モーメントマグニチュードは9.0、最大震度は宮城県栗原市の7、そして岩手県における津波の最大波高が21.1m、観測されました最大遡上高は大船渡市綾里湾の40.1mと報告されています。

### 🐾 宮古市・山田町

家屋は木端微塵に粉碎された

宮古市と山田町の被災の状況です。これは本会の会員が車で宮古市を通った時に撮影したもので、全てがこういう悲惨な状況を呈していました。

### 🐾 陸前高田市

跡形もなく流された竹駒町



宮古市街と田老地区の状況です。左は、津波によってここまで船が運ばれてきています。右上も宮古市内に津波で運ばれてきた船で、車で通った時に「何だこれは!」という驚きで16日に撮影されたものです。



野田村の被災状況です。役場の建物は残っているのですが、野田村も同じように壊滅的でした。向かって左側が海側です。



釜石市の状況です。左上の写真は、釜石の避難所に指定されていたお寺が手前にあるのですが、避難所の入口まで津波が押し寄せてきておりました。右上は、避難所に行く途中の道で出会ったご家族ですが、ワンちゃん3頭と同行避難。「どうしてもこのワンちゃんたちだけは助けたかった!」と飼い主さんが話してくれました。左下は、災害対策本部の入口の状況です。本部は2階にありますが、ここに安否確認等、震災発生4日目5日目は非常に混雑しておりました。右下のご夫婦も抱いているワンちゃんと車で同行避難したのですが、車ごと津波に飲まれ、車が沈む前に脱出してこのワンちゃんをお父さんが頭の上に乗せて泳ぎ続け、みんなでなんとか岸壁にたどり着いたというご家族でした。



大船渡市の被災状況です。これは16日に現地に入った時の写真です。右上は、コンビニでありました。左下は三陸町の災害対策本部で、何とか残った会社の建物を対策本部にしておりました。



避難所の状況です。ここは大船渡市で最も大きな第一中学校の体育館の避難所です。ここには行方不明者等々の情報が貼紙で張られています。この避難所において同行避難 ↗

した動物に関するトラブルが発生したため対策を講じた結果、被災者の「住み分け」とドーム型のテントが20張くらい設置されました。



陸前高田の避難所は、ここが大体600名くらい。先程の大船渡の場合は800名以上入るという避難所でありました。



陸前高田市の避難所の状況です。支援活動が不十分な時期であり、獣医師会から支援物資をもっていったところ「ありがたい」「助かりました」と感謝されました。このねこは、震災直後より車中泊のため外に出ることができなかったという状況で、キャットフードの代わりにドックフードを食べていたため非常に喜んでいただきました。上下水道をはじめライフラインが破綻した状況の中で、動物用の飲料水がなく被災者用に支給された水を分け合って飲んでいただけました。



岩手県獣医師会会員の被災状況ですが、会員は全員無事でした。しかし家族全員が津波の犠牲になられ、自宅も病院もすべて失った会員もいました。自宅の全壊4戸、半壊5戸、診療施設においては、全壊が3施設、半壊4施設という状況でした。以下に大船渡市の動物病院の被災状況を示します。

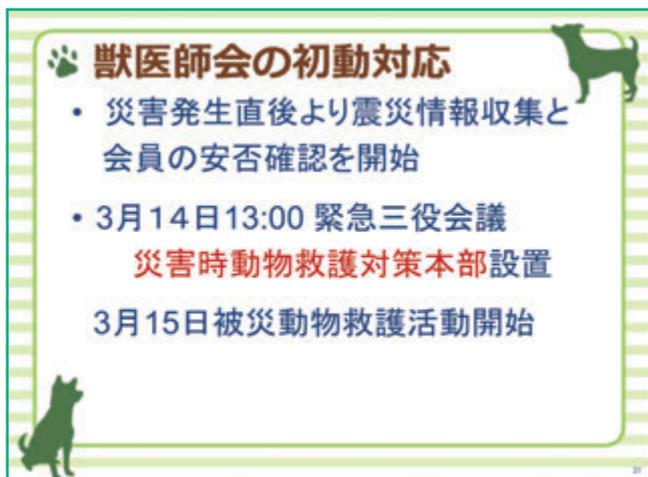


津波によって運ばれてきた泥水が堤防を越えて1.5m位浸水し、動物病院すべてが泥だらけになり、診療機器等が破壊され使用不可となりました。

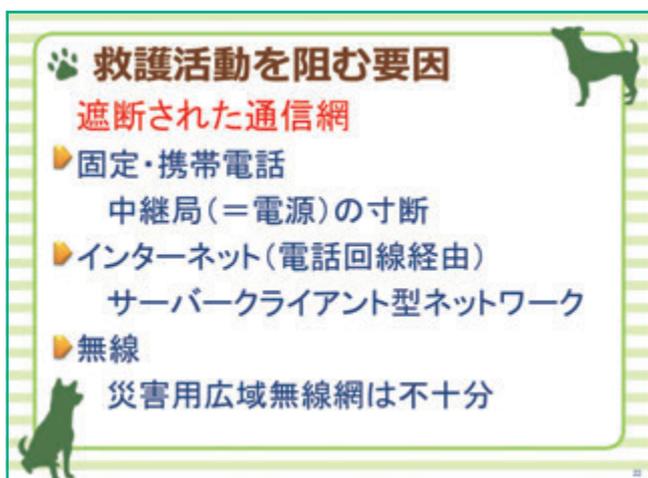




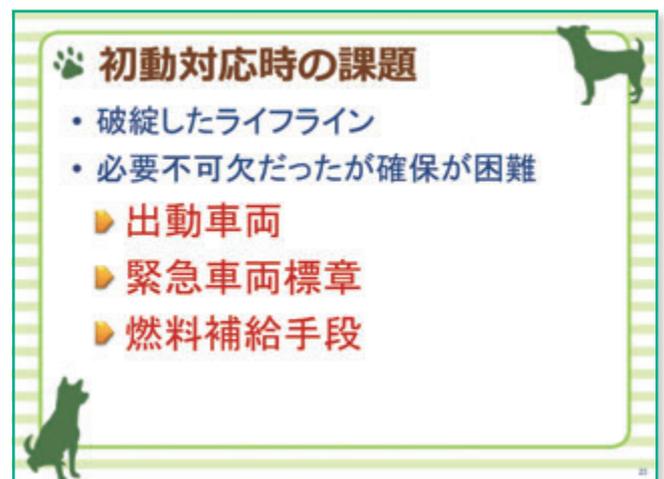
ご家族全員を亡くされた先生です。診療施設が津波にさらわれて全壊流出しましたが、「どうぶつ家族の会」より移動診療車の貸与を受け、現在往診を中心に動物診療しております。



獣医師会の初動対応ですが、発災直後より震災に関する情報収集と会員獣医師の安否確認を開始しました。3月14日に緊急三役会議を開催し、岩手県獣医師会の要綱に基づき「岩手県獣医師会災害時動物救護対策本部」を設置し、翌15日から被災動物救護活動を開始致しました。



最初に、救護活動を阻む要因について申し上げたいと思います。地震と津波によりライフラインは当然破たんしておりましたが、まず、私どもにとって、もっとも大変だったのは通信網が全く遮断されて使えないという事でありました。固定電話はもちろん、携帯電話も中継局が破壊されて全く通じない状況で、かろうじて通じたのが公衆電話だけということでありました。インターネットも電話回線経由でありますから、いわゆるサーバークライアント型ネットワークで、これも電源が無くなると全く役に立たない状態であり、救護活動にとっては非常に大変な状態でした。災害用の広域無線網も各市町村にあったのですが活用は不十分でした。



初動対応時の課題です。先程も申し上げましたが、ライフラインが完全に破たんしている中、被災動物救護活動にどうしても必要なのに確保が困難だったものが3つあります。第1は、「出動のための車両」がない。これは支援物資の搬送のためのトラックを含めて、まず車両を確保しなければいけなかった。それから地域によっては緊急車両以外は被災地に入れないということで、私も個人的に公安委員会から許可をいただいた救援車両で入っておりましたが、第2は、普通の車は震災地には混乱するという事で入れないという状況が続いたために「緊急車両の標章」が必要だったという点があります。第3には、第2の問題と不離一体の課題であります。燃料補給手段といいますが、ガソリン、軽油の確保が出来なくて大変でした。以上の3つが非常に初動対応時にはなんとかしなければいけない課題であると考えます。

## 岩手県災害時動物救護本部

岩手県との協定に基づき3月22日設置  
構成

1. 岩手県環境生活部くらしの安全課
2. 社団法人岩手県獣医師会
3. 県内動物愛護団体  
(岩手県動物愛護推進協議会)
4. 緊急災害時動物救援本部事務局

自然災害発生時において「岩手県災害時動物救護本部」を設置することは、岩手県との協定を締結しておりますので、これに基づき3月22日に救護本部が設置されました。本部の構成員はスライドに示した4部門です。

## 救護本部の組織体制

被災沿岸地域 ⇒ 4 地域支部に区分  
久慈・宮古・釜石・大船渡(陸前高田)  
⇒ それぞれに以下の班を設置  
地域支部総合窓口(広域振興局)

1. 被災動物保護班
2. 被災動物医療班
3. 被災動物支援班

救護本部の組織体制です。岩手県の被災沿岸地域を4つに区分いたしました。これは久慈・宮古・釜石・大船渡は陸前高田を含みますが、それぞれ地域に振興局が総合窓口となり、それに加え被災動物の保護班・医療班・支援班の3班を設置し、地域支部としました。

## 地域支部の編成

班名	地域: 久慈地域・宮古地域 釜石地域・大船渡(陸前高田)地域
保護班	各県広域振興局保健福祉環境部・センター
医療班	獣医師会沿岸地域拠点動物病院(9施設) 獣医師会各支会(11支会) 岩手大学農学部付属動物病院
支援班	各県広域振興局保健福祉環境部・センター 獣医師会各支会 動物愛護団体(9団体) 盛岡ペットワールド専門学校

地域支部の編成です。地域支部は4つ、班は3つであります。それぞれの担当は、保護班は県の各広域振興局保健福祉環境部並びに同センターが中心です。当然のことながら動物愛護団体及び獣医師会もこの役割を担っておりました。医療班は、まず初期は獣医師会の沿岸地域において開業して被災を免れた9診療施設を「拠点動物病院」として位置付けて、ここに保護し必要な応急治療を行いました。その他に獣医師会には内陸地域を含め11の支会(支部)があり後方支援を実施しました。さらには、岩手大学農学部付属動物病院による移動診療車「わんにゃんレスキュー号」による被災動物診療支援が行われました。支援班は、県の機関・獣医師会・動物愛護団体9団体それから盛岡ペットワールド専門学校を含めた多彩なメンバーで支援班を構成しております。

## 被災動物保護班

県広域振興局保健福祉環境部・各センター

1. 救護本部・治療班・支援班との連絡調整
2. 被災動物に係る相談等の受付
3. 逸走動物の保護・管理(一時保護・引き取り)
4. 県民、避難所からの情報に基づく対応
5. 避難所等における適正飼育の普及啓発等
6. 避難所の巡回による飼育状況の確認  
適正飼育に係る指導・相談窓口設置
7. 動物救護等に係る情報提供

保護班の役割は、全体の連絡調整、逸走動物の保護管理、避難所等における適正飼育の普及啓発等々、スライドに示す役割を担当しました。

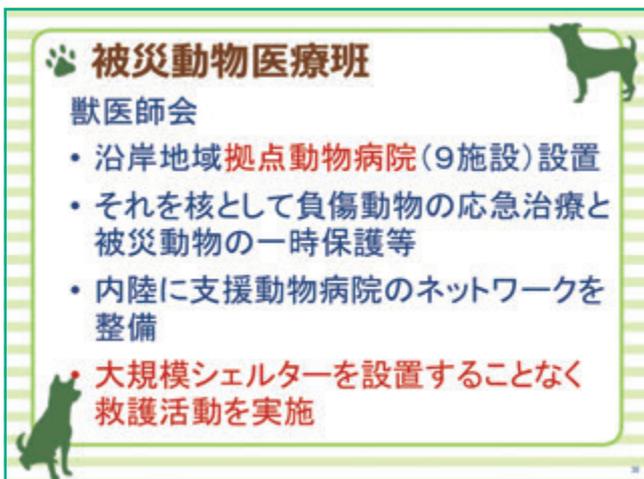


スライドは、沿岸地域の宮古市において被災動物を保護した拠点動物病院の状況を示しています。とにかくキャリーケースを積み、入院ケージをフル稼働して、最大時で40頭から50頭くらいの動物を保護しました。



このスライドも同じような状況を示しています。

医療班の活動内容です。負傷動物の治療、一時預かり飼養、ワクチン接種の確認、それから健康相談への対応、獣医療空白地域への訪問診療の実施等々です。

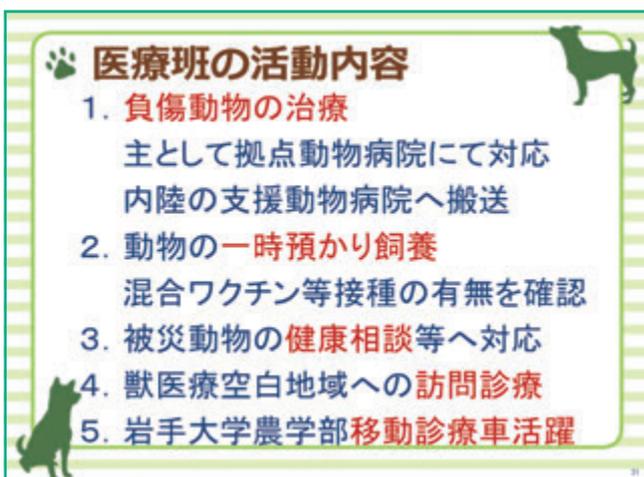


具体的な医療班の活動内容を紹介します。右スライドは、宮古地域支部の拠点動物病院の獣医師が被災地で臨時の診療所を開設して被災動物の動物診療に当たりました。左スライドは、北海道から支援に来られた先生が小生と一緒に避難所へ訪問した時に、車中避難している犬・ねこの診療にあたっているところです。

被災動物医療班は獣医師会が担当しました。沿岸被災地において被災を免れた9施設の「拠点動物病院」を設置し、それを核として医療班ネットワークをつくりました。拠点動物病院は、被災動物の応急治療と一時保護を担当、その後方支援体制として内陸の「支援動物病院」は、拠点動物病院から内陸に移送されて二次診療を行う必要のある動物の保護等の医療班体制をつくりました。このことによって岩手県においては大規模なシェルターを設置することなく比較的スムーズに被災動物の救護活動を実施することが可能であったと考えております。

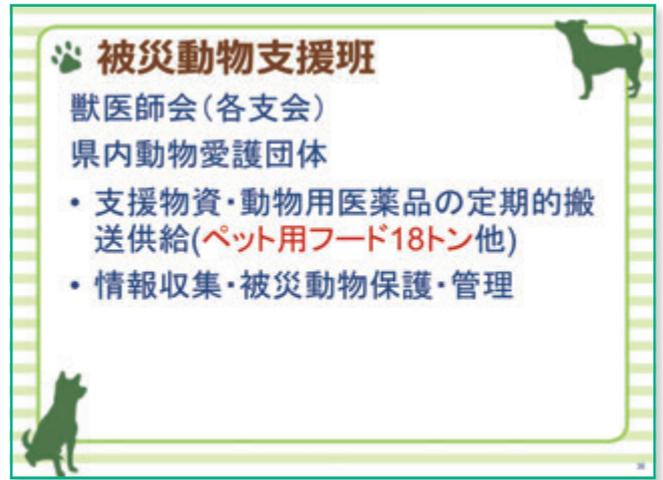


この写真は、被災地において出張診療および健康診断を行っているところです。





これは岩手大学農学部付属動物病院の移動診療車による獣医療支援の様子です。この車は、ホルスタインカラーで本来「モーモー号」という名称がありましたが、「わんにゃんレスキュー号」という名前に変更して沿岸被災地に5回出動し、被災動物の応急治療や重度の動物については大学に搬送して手術する等の高度獣医療を施していただきました。



支援班は、獣医師会、県内動物愛護団体が連携して情報の収集、保護動物の管理、動物用支援物資、医薬品等、例えばペット用フードは18トンに及びましたが、支援を受けた物資等を被災地へ届けながら、被災動物の保護管理を実施いたしました。



医療班の活動実績を示しました。被災動物の応急治療は、犬303頭・猫他155頭で合計2ヶ月で458頭治療しました。この頭数は、本部の医療班におけるものですが、その他に緊急災害時動物救援本部の義援金を活用し、獣医師会独自の健康相談強化事業として1頭当たり5,000円の医療費助成を受けて1,126頭の応急治療、予防措置等を実施しました。



この写真に写っている動物たちは、飼い主さんたちと同行避難してたどり着いた避難所において、私たちが来るのを心から待っていたらと思うられるワンちゃん達が写っています。この避難所においては、ほとんどの駐輪場にワンちゃんをつなぐことで活用していました。





これは県北地域の避難所です。現実的な問題としてどうしても避難所の「裏」といった目につかない、見えない、あまり目立たないところに同行避難した動物を置かざるを得なかったという状況が避難所ではありました。

### 動物救護活動の内容

被災動物の保護・管理	犬
飼主依頼による一時保護	166頭
飼主依頼による引き取り	21頭
飼い主不明の保護	15頭
合計	202頭

動物の救護活動の内容です。犬の保護管理は合計202頭となりました。



この写真は、避難所の外での車中避難生活です。非常に怖いのは、阪神淡路大震災でも大きな問題となった「エコノミークラス症候群」への対策が必要でした。避難所における動物の受入れ状況によっては、どうしても車中泊をしなければならない動物が結構いました。そして、このような車中泊をせざるを得ない飼い主さんには、どちらかといえば中型犬、小型犬とねこの多頭飼育をされている方に多い傾向が見受けられました。

### 動物救護活動の内容

被災動物の保護・管理	ねこ
飼主依頼による一時保護	71頭
飼主依頼による引き取り	37頭
飼い主不明の保護	22頭
合計	130頭

同じくねこの場合は、合計130頭となりました。

### 動物救護活動の内容

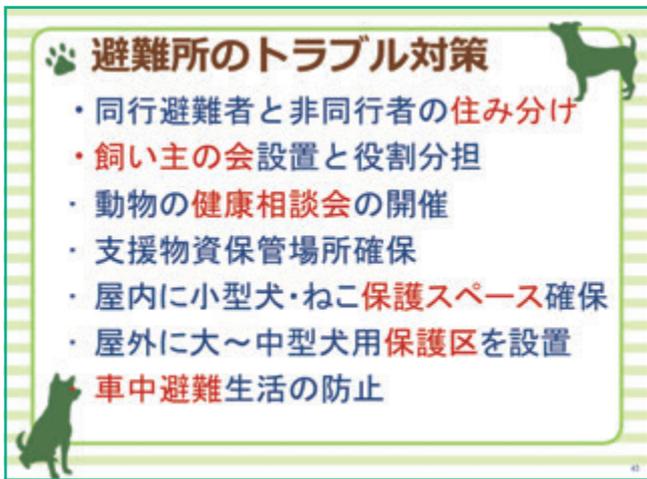
返還された動物	合計
犬	130頭
ねこ	52頭

譲渡された動物	合計
犬	34頭
ねこ	32頭

救護活動において返還をされた動物は、合計182頭、犬130頭・猫52頭でした。里親募集によりあたらしい飼い主に譲渡された動物は、合計66頭、犬34頭・ねこ32頭となっております。





実は、避難所における被災者同士の動物に関係したトラブルというのが結構ございました。トラブル解決に対する早期の対応が大きな課題であると反省し、報告させていただきます。まず避難所に入っている被災者の方々は、動物と同行した避難者である飼い主、動物を同行避難できなかった飼い主、もともと動物を飼っていない被災者等いろいろな被災者の方々が指定場所に集合します。

たとえば、大船渡の最も規模の大きな避難所では、動物と同行避難した被災者が集団で避難所の中央に集合したために、他の避難者が犬の鳴き声や臭い等々に神経質になり「避難者同士が非常に険悪な状況になっている」ということで、獣医師会が市災害対策本部からトラブル解決の依頼を受け、それに対する対策を講じました。

対策としては、まずは動物の同行避難の有無により避難者の住み分けをすること、それから家庭動物の同行避難に対する避難所(被災者)全体の理解をしていただくようお願いすることでした。住み分けをした上で「飼い主の会」をつくり役割を分担して責任をもってきちんと動物を管理する、その上で健康に問題がある場合には相談会を開催したり神経質な動物でも安心して生活できる保管場所をつくらせたり、それから屋外においては関係者のみなさんが往来するところとは別な所に保護スペースを確保するという対策を講じました。これらの対策をとることによりその後大きなトラブルは生じませんでした。



この写真は、避難所において「飼い主の会」をつくり相談会も兼ねた懇談会を行っているところでもあります。余談ですが「ワンちゃんがいなくなった、どなたか知ませんか?」という看板、貼り紙がたくさんございました。



これは、ワンちゃんにとって快適であったかどうかはわかりませんが、避難所は向かって右側にあり、マスコミが常駐しタクシーや自家用車がひっきりなしに往来かつ待機している場所でした。



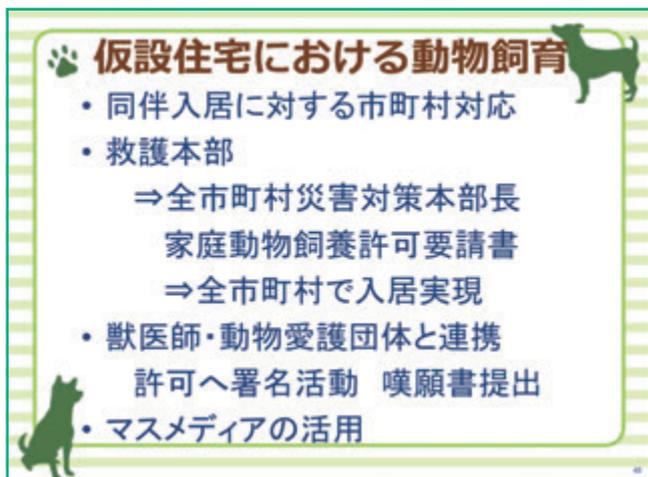
ワンちゃんが「非常に委縮してご飯もろくに食べない」ということだったのですが、そこに小さくても隠れるスペースときちんと食事ができる場所を確保した結果、ワンちゃん自身のストレスが軽減し飼い主が管理する上で非常に違って来たという実例でありました。



これはねこの「隠れ家」です。神経質なねこの保護スペースを確保した事例です。フードやケージを置いてその中にニャンコがいて、犬よりニャンコの方が非常に神経質ということで、動物種によって対策の違いを工夫する必要があると思います。



これは、まだ積もった雪の塊が残っている時期の仮設住宅における被災動物の生活です。仮設住宅に移り住んでもやはり動物というのは、岩手弁で言うところの「すまっこ（隅っこ）」に繋がれ、人目につかない隅みや上の方や影とかに置かれている傾向がありました。



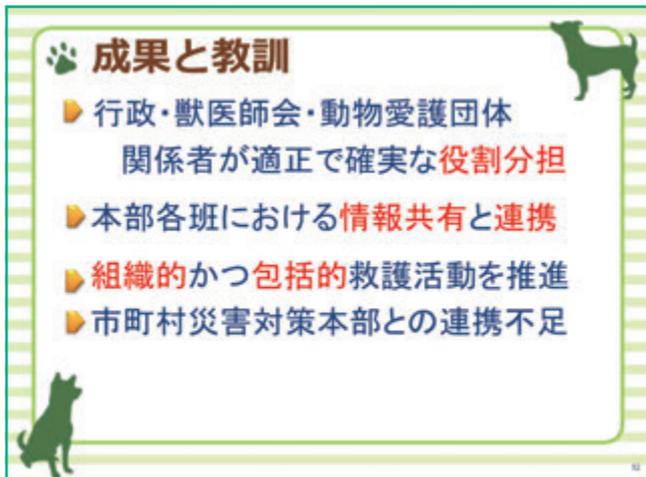
避難所から仮設住宅に移る時の動物の同伴入居に関する問題がありました。市町村によって、それに対する対応が統一されておらず、「認める・認めない」ということが新聞でも報道されました。救護本部として、それに対し被災地の全市町村災害対策本部長宛てに要請書を出して同伴入居のお願いしたところ、家庭動物の飼養については全市町村で認められました。このことは、被災地の獣医師、動物医療関係者と動物愛護団体の皆さんとが協力して署名活動、嘆願書を直接提出したことに加え、マスメディア・新聞にも被災動物の全頭仮設住宅の入居について訴える投稿も行い、その啓発を図ったことも奏功したと考えます。



岩泉町・田野畑村の仮設住宅での犬とねこたちの生活です。左のおじいちゃん是一人暮らしで、「ワシは、わんこが大事だよ」と、愛犬が大切に飼われていました。



被災動物の譲渡・返還事業も実施しました。宮古市では、保護した動物の飼い主がわからない事情とか、何らかの事情で新しい飼い主さんを探していただきたいという依頼もあったので、このように宮古の広域振興局の駐車場で譲渡相談会を開催しました。譲渡会では、多くの新しい飼い主さんが見つかって被災動物は新しい生活に移っていきました。



### 成果と教訓

- ▶ 行政・獣医師会・動物愛護団体関係者が適正で確実な役割分担
- ▶ 本部各班における情報共有と連携
- ▶ 組織的かつ包括的救護活動を推進
- ▶ 市町村災害対策本部との連携不足

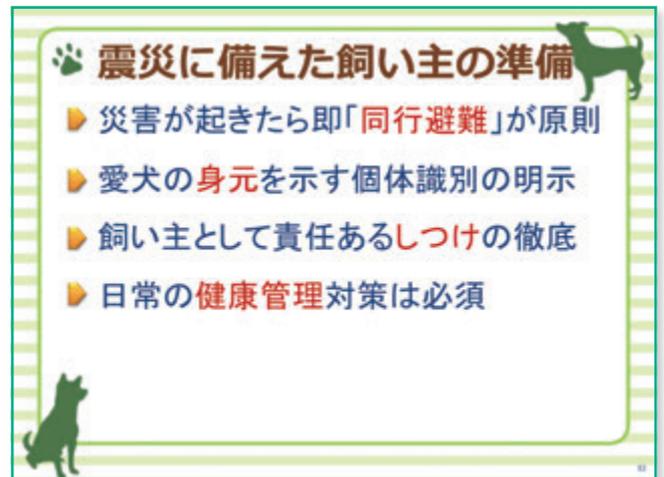
被災動物救護活動における「成果と教訓」というには非常におこがましいのですが、小生の私見です。良かった点は、行政と我々獣医師会それから動物愛護団体、つまり動物愛護・福祉・管理活動に従事する関係者の連携の下にスムーズな役割分担をしたことにより効果的効率的な救護活動を取り組むことができたということです。

発災直後、県行政当局は人命優先で大変な状況で、端的に言うとお棺と保冷剤、「ミルクと紙おむつ」を大量に用意しなければならないような状況でした。ですから本県における動物救護本部の設置が獣医師会本部設置から8日ほど遅れたのも無理はない状況で、県の方ではなかなか被災動物について即座に対応が出来ないという大変な状況であったということも理解していただきたいと思います。

その中で、不十分ながらも救護本部における各班の情報収集と共有、連携した活動を行ったことは教訓的であったと思います。これは震災当初、先程私のスライドでお示しましたように、沿岸被災地に近い獣医師会会員を中心に、先立って沿岸に赴き情報収集に奔走しました。会員からは、「国道45号線の道路が封鎖されていて被災地へ入れない!」、「やむを得ないけれどもわき道を使って被災地に入った。」、「被災地が一体どうなっているんだ、なにが必要だ!」ということが飛び交いました。

現場の状況を把握できないと手の打ちようがないので、インターネットが寸断されメールも使えませんけれども、メールが復旧後現地に赴いた会員が意識的にお互いのメーリングリストをつくって、自分が掴んだ情報をインターネット・メール上に流す。それを共有して「自分たちは、次にどこに行って何をどうすればいいのか」を情報としてネットワークに流し、最終的には関係機関を含めて60から80名位のメーリングリストが出来ました。

私は、救護本部の副本部長を拝命しておりまして、獣医療活動あるいは救護に関する情報を把握をし、「どこのあなたが動けるのか」という情報を把握すると同時に、「この課題については、誰がどこに行きどうしてほしい」という具体的な指示まで出せるようなネットワークになりました。これは非常に有効な手段であり、かつ非常時における価値ある組織的対応であったと考えております。より組織的かつ包括的な救護活動であったか否かという点ではきわめて不十分ではありましたが、先述の総合相談窓口、保護班、医療班、支援班という各班が組織的に連携をしながら救護活動の推進をしたということが効を奏したと思っております。ただし、教訓としてぜひともお話をさせていただきたいと思ったことであります。それは、市町村によって「防災計画の中に被災動物救護に関する条項がない、担当部署がない、担当職員がない」という市町村も少なからずありました。今後は市町村において地域防災計画の見直しの際は検討すべき点であると感じました。



### 震災に備えた飼い主の準備

- ▶ 災害が起きたら即「同行避難」が原則
- ▶ 愛犬の身元を示す個体識別の明示
- ▶ 飼い主として責任あるしつけの徹底
- ▶ 日常の健康管理対策は必須

以下は、自然災害発生等の震災に備えるべき飼い主の必要な準備について要点を羅列しました。これらについては後段の講演で水越美奈先生がお話になるとと思いますので簡単に話させていただきます。



**震災に備えた飼い主の準備**

【ペットの防災対策】

- ▶ 災害時に備えた**ペット用避難袋**を用意
- ▶ 必要なものを常に**手の届く**ところに置いておく
- ▶ 犬の**身分証明**となるものを持参
- ▶ 不妊去勢の実施(問題行動対策)

**震災に備えた飼い主の心構え**

- ▶ **平常時**からの防災に対する意識の醸成
- ▶ 万が一に**避難生活**(避難所・仮設住宅)になった場合の訓練
- ▶ 普段からの飼い主間の**交流**といざという時の**連携**(連絡)

**東日本大震災 犠牲動物合同慰霊祭**

目的: 東日本大震災により犠牲になった犬猫およびその他の愛玩動物の慰霊

日時: 2012年2月18日(土) 13:30 ~

会場: 釜石市鈴子町 シープラザ遊

主催: 岩手県獣医師会遠野支会

共催: 大槌町、釜石市、沿岸広域振興局 (釜石市保健所)

**東日本大震災 岩手県犠牲動物慰霊祭**

日時: 2012年3月25日

会場: 岩手県陸前高田市 光照寺

主催: 被災動物支援隊いわて Save Animals in Iwate **SAI**

第1部 慰霊の集い  
「愛する動物たちを見送るとき」  
ペット研究会「互」主宰 山崎恵子氏

大震災によって動物とともに幸せに暮らしていた多くの飼い主が、一瞬にして「ペットロス」となりました。心に深い傷を負った飼い主の精神的ケアも必要という事で、岩手県内各地において「慰霊の集い」や大震災により犠牲となった動物の「慰霊祭」が営まれました。

**岩手県犠牲動物慰霊祭第二部**



犬や猫計5匹が津波で流された陸前高田市の〇〇さん(53)は、震災後に飼い始めた犬と参列。「**今まで何もできなかった、やっと供養できた。**」と涙目で話した。東日本大震災で犠牲になった動物の慰霊祭で、ペットを抱え手を合わせる参列者(岩手県陸前高田市)

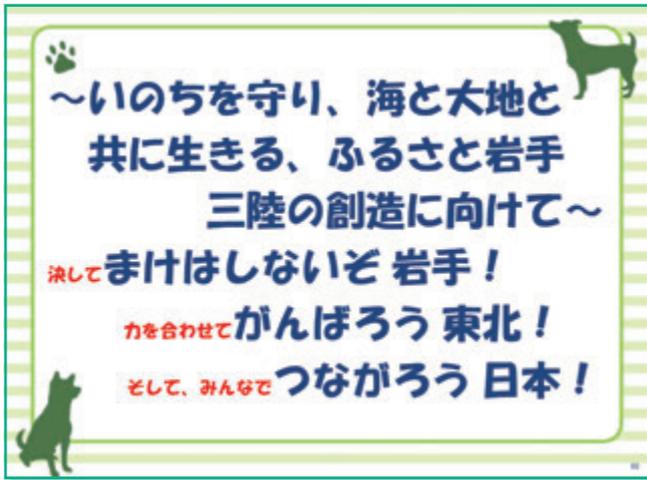
この写真は、津波で5頭の動物を亡くした飼い主さんが、「今まで何もできなかった」が新しいワンちゃんと一緒に「慰霊祭に参列し焼香することでやっと供養できた」という思いについて新聞報道されたものです。

**岩手県犠牲動物慰霊祭第二部**

岩手県の獣医師らでつくる「被災動物支援隊いわて」は、25日、陸前高田市で東日本大震災で犠牲になった動物の慰霊祭を開いた。震災から1年が経過したのを機に、**公にしにくかったペットを失った悲しみを共有し、新たな一歩を踏み出してもらおうと企画した。**遺族代表の佐藤さんは「**二度と災害でペットや飼い主が悲しむことがないようにしたい**」と述べた。

平成24年3月26日 時事通信より

多くの飼い主が、震災の発生により一瞬にしてペットロスとなり心に大きな傷を受け、今日まで「公にしにくかったペットを失った悲しみがある」とともに「二度とこのような災害でペットが悲しむことがないようにしたい」という参列者の皆さんが持っている気持ちが痛いほど理解できました。



これは岩手県の東日本大震災の復興に向けてのスローガンです。今、県民が一丸となり、ふるさと岩手と三陸の再生に向けて頑張っております。とにかく負けないぞ、がんばろう、そして一つに繋がろう、そういう気持ちで岩手県はがんばっておりますので、どうかこれからも全国から被災地に対するご支援をお願いしたいと思います。簡単でございますけれども、ご報告とさせていただきます。



御清聴ありがとうございました。

